



凍てつく冬の最中に、手放せない一杯のコーヒー

静岡大学は、ABPによる経済的支援に加え、生活しやすい環境や豊富な研究資源、就職サポートやネットワークが充実していることから、進学を決めました。大学では、聴覚障害者支援を目的とした研究に取り組みました。周囲の重要音声を検出・方向推定できるように、2つのマイクを用いた簡易な装置を低コストでつくり、機械学習により音声と雑音を高精度に分類する手法の研究です。英語や日本語での議論や国際共同研究を通じて専門性を高めるとともに、自分の将来を見据え、日本で働くために必要な知識の獲得や能力向上にも力を入れました。留学を通じて、多国籍の仲間と議論したり、異なる視点に触れたりしたことで、考え方や発想力が広がり、学ぶ楽しさを実感できました。将来は、現在の職場で工場の自動化に役立つ製品を開発し、多くの人々に貢献したいです。

Vol.10 優れた技術者になり 人々に貢献したい

アンドレ シンプル(インドネシア出身)
総合科学技術研究科 情報学専攻(2017年卒業)
2017年10月よりヤマハ発動機株式会社(エンジニア)勤務

静岡大学は、ABPによる経済的支援に加え、生活しやすい環境や豊富な研究資源、就職サポートやネットワークが充実していることから、進学を決めました。大学では、聴覚障害者支援を目的とした研究に取り組みました。周囲の重要音声を検出・方向推定できるように、2つのマイクを用いた簡易な装置を低コストでつくり、機械学習により音声と雑音を高精度に分類する手法の研究です。英語や日本語での議論や国際共同研究を通じて専門性を高めるとともに、自分の将来を見据え、日本で働くために必要な知識の獲得や能力向上にも力を入れました。留学を通じて、多国籍の仲間と議論したり、異なる視点に触れたりしたことで、考え方や発想力が広がり、学ぶ楽しさを実感できました。将来は、現在の職場で工場の自動化に役立つ製品を開発し、多くの人々に貢献したいです。



インドネシア・ジャワ島の
プロモ山に登った日。標高
2,329mの活火山にて



バリ島のナシチャンプル。
香り高いスパイスと多彩な
おかずが並ぶ一皿



アジアブリッジプログラム(ABP)は、静岡県とアジア諸国の架け橋として活躍する人材を育成するため、企業や自治体と連携して、静岡大学で学ぶ留学生を応援しています。ご支援いただいている企業の皆様のおかげで、昨年開講10周年を迎えることができました。



ABPについて



ABP10周年記念
特設サイト

プロジェクト vol.2 研究所レポート

プロジェクト研究所は、学内研究者の連携や産学官連携を促進し、自主的な研究活動を支援する静岡大学独自の制度です。学部を越えた連携や企業など外部の研究者との連携により、未来をリードする新たな研究が生まれています!



ピアノとウェルビーイング研究所



ピアノは芸術的価値にとどまらず、人々のウェルビーイングに寄与する大きな可能性を秘めています。国内三大楽器メーカーを擁し、ピアノ製造において国内シェア100%を誇る静岡県の国立総合大学としての強みを活かし、地元の楽器メーカーやピアニスト、調律師との連携のもと、領域横断的にピアノにまつわる研究を行っています。ピアノ文化の振興と、ピアノを通じたウェルビーイングに資する新たな価値の創造を目指します。



テクノフェスタでの研究所コンサートの後、
クラウドファンディングピアノを囲んで



研究所長
人文社会科学部
安永 愛 教授

研究所WEBサイト



FO キーワード
・産学連携
・地域連携
・学際研究
・ピアノ
・ウェルビーイング

キノコ科学研究所

現在、私たちが生きる地球は、地球温暖化や人口増加、環境破壊、パンデミックなど、一朝一夕には解決出来ない複雑な課題を抱えています。これらの課題の解決に向けて、多彩な機能や現象を有し、無限の広がり可能性を秘めた「キノコの力」に着目し、多様な専門分野の研究者が集結して、研究を展開しています。キノコの生理機能から応用利用に至るまでの総合的な知の集約を図り、キノコ研究における世界的拠点を目指します。



キノコ科学研究所のイメージ図
「キノコの力で未来を育てる」



研究所長
グローバル共創科学部
平井 浩文 教授

研究所WEBサイト



FO キーワード
・フェアリー化合物
・機能性成分
・バイオレメディエーション
・バイオリファイナリー
・キノコ毒

Shizudai Mini News

バッテリー交換式EV 実証実験に参画

静岡大学は、2025年11月に静岡市や地元企業など10団体と、再生可能エネルギーの地産地消と地域防災力強化を目的とした「バッテリー交換式EVの利用とバッテリーシェアリングに関する実証実験協定」を締結しました。2021年に「静岡大学SDGs宣言」を発表し、大学全体で取り組みを進めています。本学では、超小型EV「クロスケ」を学内郵便物の配送に導入し、エンジン車との性能を比較して環境負荷低減効果を検証しました。バッテリー交換式EVの実務利用やビジネスモデル検証を通じ、環境負荷低減と地域防災の両立を図ります。



日誌一幸学長と
超小型EV「クロスケ」

サステナブルキャンパス賞 2025「奨励賞」を受賞

静岡大学は、「サステナブルキャンパス賞2025大学運営・地域連携部門」において、「奨励賞」を受賞しました。2025年11月に行われた授賞式では、堂園俊彦サステナビリティセンター長による受賞事例講演も行われました。サステナブルキャンパス賞は、持続可能な環境配慮型社会の構築とSDGs達成への貢献を目的に2015年度から実施され、大学などの高等教育機関における教職員・学生・企業などによる取り組みを表彰する制度です。本学の受賞事例は「連携を加速するカーボンニュートラル推進体制の構築と展開」。学際的連携による「カーボンニュートラル宣言」や「アクションプラン」の公表、「カーボンニュートラル特別教育プログラム」の実施により、すべての学生が自分の専攻と並行して関連科目を受講できる仕組みを構築したことなどが高く評価され、今回の受賞に至りました。



堂園俊彦 サステナ
ビリティセンター長

情報学部・工学部・電子工学 研究所と浜松医科大学が 部局間包括協定を締結

2025年11月、教育・研究等の機能強化と事業の発展を目指し、部局間包括協定を締結しました。静岡大学「未来創成ビジョン」で定めた9つの目標のうち「G1.ソーシャルウェルネスの実現」「G3.イノベーションの創出」「G4.スマートコミュニティの実現」推進のため、情報学部・工学部は浜松医科大学医学部、電子工学研究所は浜松医科大学光医学総合研究所との協定を締結し、密接な連携・協力を図ります。今後は、「医・工・情報連携ワークショップ」の開催や、集中講義の共同実施、単位互換、課外活動の交流など、これまでの連携をより深化させていきます。多様な背景を持つ学生同士の交流により幅広い視点を育むとともに、連携による共同研究を推進し、静岡県、日本、世界への貢献を目指します。



静岡大学
未来創成
ビジョン



(写真左より)青木徹電子工学研究所長、
尾内康臣光医学総合研究所長

静岡大学構内古墳群 第11号墳を発掘・公開

静岡大学キャンパスミュージアムと人文社会科学部考古学研究室では、「博物館DXによるキャンパスミュージアム(大学丸ごと博物館構想)の再構築」の一環として、静岡キャンパス構内にある「静岡大学構内古墳群第11号墳」を再発掘しました。第11号墳は7世紀頃の横穴式石室を持つ古墳で、1996年にキャンパスミュージアムの学術資料整備の一環として公開を目指して発掘されたものの、整備がかなわず埋め戻されていました。現在、可能になった3Dなどのデジタル技術を用いた記録を作成し公開する目的で再発掘を行い、2月に石室の公開、ドローン撮影や3DスキャンなどのDXワークショップを行いました。



古墳の説明を行う篠原和夫教授(人文社会科学部)

地域創造学環フィールドワーク 総括フォーラムを開催

地域創造学環のカリキュラムの柱であるフィールドワークは2024年度で概ね終了し、9年間の取り組みの総括として2025年12月に「フィールドワーク総括フォーラムー地域・学生・教員が集い、振り返るー」を開催しました。フォーラムでは太田隆之教授をコーディネーターに、協力地域の方3名と卒業生3名が登場し、パネルディスカッションを行いました。卒業生は現在の仕事や生活でのフィールドワーク経験の活かし方、地域の方々や学生受け入れによる地域への影響や当時の思いを語りました。当日は北海道・関東・関西など遠方からの卒業生を含め、約80名が来場。フィールドワークの意義を改めて共有する、有意義な場となりました。



卒業生が登場したパネルディスカッション

静岡キャンパス⇄JR静岡駅 「連節バス」運行開始

2026年4月より、静岡大学静岡キャンパスとJR静岡駅を結ぶ連節バスの運行が開始されます。本路線は、平日6往復、JR静岡駅前から三菱電機前を経由し、静岡キャンパス構内に新設する「静岡大学図書館前」バス停までを直行で結びます。導入する車両は、二つの車体を連結した「連節バス」で、従来車両と比べて約1.5倍に定員を増強して輸送効率を引き上げています。連節バスが路線バスとして運行されるのは静岡県内で初めてのことです。車両にはハイブリッド車が採用され、環境負荷の低減にも寄与します。



運行開始する連節バス